厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年9月3日(火)
13時00分開会 14時08分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：川上 均 副委員長：橋本晃明
委 員：山本奈央、桜井崇裕、佐藤幸一、西山輝和
議 長：山下清美(欠席)
- 4 事務局 事務局次長：川口二郎
- 5 議 件
 - (1) 陳情の審査について
 - (2) 所管事務調査の申し出について
 - (3) 道外研修(総務産業と合同)に係る協議
 - (4) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

【開会 13 : 00】

(1) 陳情の審査について

委員長（川上 均）：只今より、厚生文教常任委員会を開催する。最初の案件であるが、陳情の審査を行っていきたいと思う。陳情第12号、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率2分の1への復元、30人以下学級など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた陳情である。陳情者は清水地区連合会。この陳情の内容については毎年出されて、常任委員会でも取り上げていただいているものだが、今まで義務教育費が2分の1だったのが3分の1に減らされていて、なおかつ、学級数についても変わらないので義務教育の拡充のために、30人以下学級だとか、その他関連する教育予算が本来国でやるべきものだが、市町村によって負担させられて、町村によっては、その差があるということも含めて、きちんと国で国庫負担として教育にもっと予算をつけてくれというような趣旨の内容である。これについて皆さんの方から何かご意見等があったら、出していただいて、最終的にどうするかを決めていきたいと思う。皆さんの方から何かご意見等あるか。

山本委員：この陳情の5番のところであるが、高校授業料無償制度への所得制限撤廃というのはわかるけれども、なぜ朝鮮学校の授業料無償化適用除外撤回を実現するよう要請する、がついているのかがわからないのだがどうか。

委員長：いわゆる全部の高校が今すべて無償化の適用にはなっていない。朝鮮学校というのが実は除外されていて、ただ日本の中で教育を受ける権利として、そういう差別があってはならないということで、この陳情の趣旨はそういう、そのような形で差別があってはならないということで、適用除外を撤回するという、そういう内容だと思う。

山本委員：去年も書いてあったのかもしれない気づかなかったけれども、朝鮮学校というのも、いろいろな問題提起している方もいるので、差別はいけないけれども区別というのは大事と思うので、こちらはなくてもいいのではないかと思うのだけれども。高校授業料の所得制限撤廃というのはいいけれど、わざわざ朝鮮学校と書く必要はあるのかと思っているがどうか。

委員長：朝鮮学校のどこが問題なのかということ。どこが問題なのか指摘していただきたいと思う。

山本委員：どこがかはわからないけれど、他の国も色々あるとは思っただけけれども、あえて朝鮮学校と絞っているところになぜなのだろうという。差別はいけない、先ほども言ったのだけど、なぜわざわざここに挙げてくるのかというのがちょっとわからない。

委員長：なぜかというか、他の外国人学校は認められているのに、朝鮮学校だけは認められていないという差別、やはり教育の機会均等ということであれば、日本に在住するすべての高校生、どこの学校に行っても無償で授業を受けるという、無償化の適用を求

めるのが本来ではないかという趣旨の請願になっていると思う。

山本委員：他国の学校は日本にあって、それは授業料無償化されているということか。

委員長：多分他のところが出てこないということは朝鮮学校だけだと思う。アメリカンスクールだとか色々あるところは適用されているのではないかと思う。適用されていないのであれば出てくると思う。あえて出てこないということは、まだ書いてない可能性もあるけども、本当にされているかどうかというのは、確認取ったわけではないが、あえてここに出てくるということは、朝鮮学校だけが結局適用除外されているということだと思う。

橋本委員：ちょっと事実確認しないと。

委員長：今わからないけども、この内容については朝鮮学校ということで具体的に指摘しているということだと。

山本委員：もし出すのであれば他の国とかはどうなのかなということも、調べた上で考えた方がいいのではないかということで、終わりたいと思う。

委員長：多分では駄目だと思うが、そのような意見今あったのだが皆さんはいかがか。特にないか。

桜井委員：今、橋本委員から言われたように、そういう事実が存在するのであれば、やはり撤回ということも必要だと思うのだが、現状どのようになっているのかというのはわからない部分もあるので、調べるかどうかは別として。

委員長：暫時休憩する。調べる。

【休憩 13:08】

【再開 13:20】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。ただいま山本委員から朝鮮学校だけなのかということで、指摘があったので休会中に調べたところによると、もちろん、高校、公立私立含めて外国人学校も含めて、適用されている。ただ朝鮮学校だけは適用除外されているということなので、やはり日本国に住む子供たちが等しく教育を受ける機会均等の部分に反するというので、このような陳情が出てきていると思うので、その趣旨を理解していただいて、皆さんのご意見を聞きたいと思う。西山委員いかがか。

西山委員：このまま入れておいてもいいと思う。

委員長：このとおりでということで。佐藤委員はいかがか。

佐藤委員：これについては、国の制度だと思う。高校授業料無償制度の所得制限撤廃するのに、朝鮮学校の授業料無償化適用除外撤回を実現するよう要請する。うちの勉強するのに

除外されるということは成り立たないと思うので、文面はこのとおりでよろしいと思う。

委員長：山本委員あらためていかがか。

山本委員：朝鮮学校は無しなら採択でいいと思うけれども、このままの文章であれば私は不採択がよろしいのではないかと思う。

委員長：朝鮮学校を除くという事で。橋本委員いかがか。

橋本委員：結論で言えば採択で。

委員長：採択という事でよろしいか。桜井委員いかがか。

桜井委員：全般で言えば陳情は採択でいいと思うのだが、なぜその朝鮮学校が許認可されないのかという、そこがちょっと引っかかるので、許認可されている上で除外されるなら本当に問題であるし、そのされない部分のことがどうも引っかかると。そこら辺がはっきりしないのと、冒頭委員長が言ったように文言が出てこない状況もあったということをお案すると、今回この部分、山本委員じゃないけれども、その部分を除いてもいいのではないかという私の考え方。

委員長：皆さんの方から一通り出されたのだが、まずこの請願については採択か不採択かについては採択ということよろしいか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長：では、5番目、朝鮮学校の部分については、除くかどうかについて皆さんの方から意見先ほど出されたが、西山委員、佐藤委員からはこのままでいいということで。暫時休憩する。

【休憩 13:25】

【再開 13:39】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。皆さんのお手元に、意見書案が提出されている。昨年の参考にあるのだが、去年は4番までで、5番目がなかった。本年の陳情については5番目として、高校授業料の無償化制度への所得制限の撤廃と合わせて朝鮮学校の授業料無償化の除外撤回が含まれた内容となっている。改めて皆さんのご意見を聞きたいと思う。西山委員このままでよろしいか。

西山委員：はい。

委員長：佐藤委員もこのままでよろしいか。

佐藤委員：はい。

委員長：山本委員は、朝鮮学校を除くということによろしいか。

山本委員：はい。

委員長：橋本委員はいかがか。

橋本委員：教育の充実について訴えている部分というのは理解できるのだけれど、5番目は良い悪いというよりも議論が割れているので、国に出す意見書としてまとめていくという中では、もう少し僕らも勉強不足な面もあるし、削除した上で従来どおり去年まで採択されていたような意見書で本会議に諮った上で、提出するということがよいのではないか。反対意見つけて出すというよりはその方がいいと思う。

桜井委員：ここ本当に2つに分かれてしまうが、どうしても4番と5番が重複している部分が半分以上ある。そのあとに朝鮮学校のことをつけているので、これについては少しいろいろな背景が想像されるので、これについては、先程橋本委員が言ったように、ここは削除っていうのは致し方ないと。問題あとの部分については、採択として意見書として提出ということにしたいと思う。

委員長：あと、昨年、住む地域に関係なくが削除されて、教職員増及び資質向上の部分が付け加えられているのだけれど、そこら辺は特に問題はないということによろしいか。文面どおりということによろしいか。では最終的に5番目を取り除くということで、削除して4番までということと採択して意見書を出すということによろしいか。

(「はい」という声あり)

委員長：5番目を除いてその他の文面はそのとおりということで意見書を提出するということにしたいと思うので、最終的によろしいね。

(「はい」という声あり)

委員長：続きまして陳情第13号、こ道教委のこれからの学校づくりに関する指針、改訂版を見直し、すべての子供に豊かな学びを保障する高等教育を求める陳情である。この陳情の趣旨については、主にこれからの高校づくりに関する指針改訂版が、いわゆる公立高校の配置計画を進めてきた根幹となるもので、このままいくと道内ではどんどん公立学校の統廃合が進んで、今後3年間でさらに増加していくということである。そしてさらに、多くの市町村では高校存続のために、通学費や制服代、教科書代の補助や、給食提供などの財政措置だとか、市町村立への移管をするなど、存続に向けた努力をしているが、本来はきちんと道がやるべき問題だということで、これらの問題を解決して中学卒業生が地元で学べるような形のものを提出してもらいたいという趣旨の陳情だと思うので、その旨を理解した上で皆さんのご意見をお聞きしたいと思う。これについて桜井委員の方からいかがか。

桜井委員：採択でいいと思う。

橋本委員：採択でお願いします。

山本委員：これからの高校づくりに関する指針も一応目をとおしてみたけれども。わが町にも関係あることなので採択でよろしいと思う。

佐藤委員：採択でよろしい。

西山委員：採択でよろしい。

委員長：ただいま皆さんの意見を聞いたところ採択ということなので、委員会としては採択ということで進めたいと思う。よろしいか。それでは、意見書案を事務局より配布する。このような形で意見書を提出するということがよろしいか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

(2) 所管事務調査の申し出について

委員長：所管事務調査の申し出についてということで、12月の定例会までの所管事務調査についてだが、すでに皆さん現在小中一貫教育に関して進めている。継続ということで進めたいと思う。それから道外研修の協議も合わせてなのだが、所管事務調査については、9月の道外研修に向けて調査研究を行うため、視察事項である小中一貫教育に関するものを継続して申し入れを行うということだ。そして併せて突発的な事項に対応するため、道外研修の他に視察項目を考慮してその他の所管に関する事項についての申し出も入れていきたいと思う。そのような形でよろしいか。継続協議ということで。

(「はい」と呼ぶ声あり)

(3) 道外研修（総務産業と合同）に係る協議

委員長：皆さんのお手元に今回また新たに資料配付されていると思うのだが、皆さん質問事項について考えてこられたか。西山委員いかがか。

西山委員：定例会の期間中にもう1回開いていただければ、それまでに質問事項まとめたいと思う。

委員長：次回も含めてということよろしいか。佐藤委員いかがか。

佐藤委員：同じという事をお願いします。

山本委員：私もこの資料見て質問、気になることを見つけないかと思う。

橋本委員：資料前にも見たのかもしれないのだが、一部の人しか渡っていなかったのではないかという気もするが。

委員長：いや、渡っていたと思う。

橋本委員：もうちょっと読みたいので、次回で。

桜井委員：出席できないのでしっかり勉強して、皆さんにいっぱい質問してもらえるように、色々な勉強させてもらいたいと思う。

委員長：それでは、今日でなくて次回ということによろしいか。神山も、今回はテーマとしてはまるごと高専ということで、実際は町でやっているのは違う。町でやっているのは城西高校とって神山は高校が別にあるのだが、その中ではいろいろなやり方、全国から留学生を集めて、寮も作って、寮の中でやっているという方法。ふるさと高専というのはあくまでも東京にいる起業家の人が、4人集まって、もともとITの関係で進んでいる町だったので、そこで改めて高等専門学校を企業の人で作っていて、資金はクラウドファンディングで100億以上集めたという、日本企業から。それで校舎を作って寮とかを全部、全寮制にして作って全国から生徒募集しているというのは、趣旨が少し別なのですが、そういうことも理解していただきながら質問も考えていただきたいと思う。梶原については、高校も力を入れて小中一貫について、幼保連携、幼保小中高校までの一貫した、教育を考えているみたいなので、その辺を少し皆さん勉強していただいて、質問事項について検討していただきたいと思う。皆さんの方から次回ということでも話がなかったので、予定では一般質問があるので、9日10日終わった後に、もう一度常任委員会を開催して、その中で出していただくような形でお願いしたいと思うので、それまでに色々調べて準備をしていただきたいと思う。そういうことによろしいか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長：最終日だが、北区についても表敬訪問だけだと思っていたので考えていなかったが、一応総務産業と合同になるが、向こうからの話を聞いて、それに対してする質問事項も含めて取りまとめてもらいたいということで、北区との交流ということで、①としてJ-クレジットプロジェクト事業と、②として交流事業ということで、植樹、自然体験ホームステイによる交流を行ったと。これらのことを含めた上で今後どうしていくかということの何か質問事項があれば、出していただきたいということで、今週中に出さないとならない。暫時休憩する。

【休憩 13：56】

【再開 14：05】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。北区についてはお手元の資料に基づいて、基本的には東京北区と清水町との次世代を築く連携及び協力に関する協定、そしてアンテナショップについてということと、J-クレジット事業、小学生による森林整備事業について

の2本を中心に、その他あれば併せて出していただくということで、今週中、金曜日の午前中までにメールまたは文章で事務局まで提出をお願いします。質問事項についてはよろしいか。次回の常任委員会であるが、9日の一般質問が終わった後に、質問事項等を取りまとめたいと思うので、それまでに準備して、できれば文書として提出できるような形で出していただきたいと思う。

(4) その他

委員長：その他、皆さんの方から特にないか。

桜井委員：どうして議長、副議長、こちらに出席しないのかと思っているのだけれども。やはりどちらかに出席しないと。副議長は向こうの委員であるから、それであれば議長が。そのへん調整をよろしくをお願いします。

委員長：わかった。そのような調整も次回図りたいと思うのでお願いします。その他なければ、以上で本日本日の厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会 14:08】